

天橋立・景観まちづくり通信

～天橋立を核とした魅力ある景観まちづくりに向けて～

Vol. 3

第2回天橋立公園の松並木と利用を考える会が開催されました。

松並木の望ましいあり方やそれを実現するための方策などについて意見交換が行なわれました

天橋立公園の松並木と利用について、望ましいあり方とその実現のための方策等を調査・検討する「天橋立公園の松並木と利用を考える会」の第2回検討会が、11月11日に宮津商工会議所で開催されました。

検討会の第1部では、松並木について、植生や光環境、土壌環境、江戸時代の絵図や明治以降の絵はがき、住民・来訪者意識などの観点からの調査結果が報告され、松並木のあるべき姿や、今後どのような松並木を目指していくのかなどについて意見交換が行なわれました。

続く第2部では、これまでの松並木と人との関わりや現在の行なわれている保全育成作業についての報告がなされ、松並木のあるべき姿のまま未来へ継承するために、具体的に何をすべきかということなどについて意見交換が行なわれました。

次回検討会では、天橋立公園の管理を、持続的にするための方策等について検討を進めていくことなどが確認されました。



第2回検討会で出された主な意見

松並木のあるべき姿について

- ・天橋立の植生はマツだけでなく、広葉樹など様々な種類の植物が混在している。これは、マツ林は人が手を加えないと広葉樹林に遷移していくものであり、そのことを示している。
- ・現状のマツ林は、下まで届く光が不足しており、マツにとっていい環境とは言えない。
- ・土壌は肥沃化しており、マツ以外の植物が育ちやすくなったため、マツ林から広葉樹林への遷移がより進む環境にある。
- ・天橋立をゴミのない美しい環境にすると、マツ林にとっても良い環境になるのではないか。
- ・間伐や整枝のため、現状の70%までマツ林の密度を低くしても景観の評価はあまり下がらない。
- ・今あるものを大切にするのが基本だが、クズなど明らかに外から持ち込まれたものによって、もともとあったものが駆逐されるのは問題。林を管理していく中で見極めていくことが必要。
- ・江戸時代の絵画から、そのころすでに橋立明神周辺に広葉樹があったことが確認されている。短期的な変化だけでなく、長期的な変化も見据える必要がある。
- ・一本一本大切にされているマツが集まっているというのが天橋立のマツ林の理想の姿。

光環境

- ・多くの箇所、高い植栽密度、樹冠の広がりや広葉樹により下層まで光が届かない状況



- ・松の生育を阻害
- ・暗い林内でも生育可能な常緑広葉樹との競争に負ける
- ・本数密度の高さと上層の樹幹の広がり原因と考えられる

土壌環境

- ・マツ林の保全育成のために、客土の搬入や土壌改良が行なわれている

- ・客土層の透水性は低く、堅密度は高いため、マツの根系の酸素不足、根系発達の阻害
- ・養分状態が良くなり、松以外の植物も生育可能

第2回検討会で出された主な意見(続き)

松並木の保全育成策について

- ・マツの植生の密度の高まりに対し、場所を限定した上で間伐や整枝をすることも必要。
- ・下草や落ち葉は、広葉樹への遷移を促進するため、除去する必要がある。
- ・飛砂防止のために、下草が植えられた経過もある。
- ・観光客は増えた方がいいが、踏圧が高まりマツの生育に悪影響を与えるというジレンマがある。
- ・進入禁止にはしたくないので、受入れ人数やゾーニングで観光客をコントロールすることと併せ、エアレーション(土中に空気を入れる)を行えばよい。
- ・銘木や高齢樹根に対しては、延命措置を図る必要がある。衰弱した根の回復を図る必要がある。
- ・土壌の改善に向けて、炭を土に撒いてはどうか。
- ・人々へのマツ林への理解を深めるため、ビジターセンターを設置したり解説員を配置してはどうか。
- ・子供達が自分で感じ取ることも大切にしたい。子供同士が教え合う取り組みもおもしろいのでは。
- ・今の銘木も大切だが、それと同時に将来の銘木を育てることも必要。
- ・台風23号で倒れた双龍の松をモニュメントとして残していきたい。
- ・マツ林の景観に関しては、林内と外からの両面からの管理方策を考える必要がある
- ・タバコのポイ捨てが砂浜のベンチ辺りなどに集中しており、捨てる場所への配慮が見られる。禁煙・喫煙スペースなどを決められるのではないか。

【今回のまとめ】

- ・将来必要な松並木の保全育成策が明らかになった。
- ・マツの植生の管理、砂州の管理、利用の管理の3つが一体となって天橋立が守られることが分かった。
- ・これら3つの管理を一体的に持続的に進めるには、どういう仕組みを作り上げていくのかが次回の課題である。

現在の保全育成作業

	内容	主体	頻度	備考
松枯れ防止対策	後食時期の薬剤散布	府	5~6月に3回	地上散布、スプリンクラー、ラジコンヘリ
	枯死マツの伐倒、持ち出し	府	毎年	橋立内での感染源の除去
	周辺林枯死マツの処理	府		橋立へのカミキリの飛来を阻止
松林保全	下草刈り	府	年1回	橋立より持ち出し
	落ち葉かき	府	年1回	橋立より持ち出し
	命名マツ後継樹の育成	府	適宜	命名マツを残す一接ぎ木等
	園内清掃	府	週2~3回	施設、園内の清掃・ゴミ処理

現在の保全育成作業に加えて必要な作業

将来の保全育成作業

	内容	頻度	備考
松林保全	適度な間伐・整枝	林分の状況から判断	光環境の改善
	整枝剪定	林分の状況から判断	
松林保全	地面表層の草本と菌類の除去	毎年	作業後の経過を確認しつつ
	後継樹育成・植樹	適宜	枯死マツ・風倒マツの跡地・その他
	支柱の設置	適宜	
	命名マツ後継樹の育成	適宜	命名マツを残す一接ぎ木等
	高齢マツの根茎回復	適宜	
	窟仔防止		大天橋雨樋(海水浴場付近)
	松林の監視	定期的	

天橋立公園に必要な3つの管理



皆さまの御意見をお寄せください。いろんなご意見をお待ちしております。

天橋立公園の松並木のあるべき姿や、それを未来に継承するための方策、この検討会に関する事など、ご意見などがありましたら、下記の事務局までお寄せください。

次回検討会について

第3回天橋立公園の松並木と利用を考える会は平成18年1月に開催予定です。詳細は決まり次第お知らせします。

編集・発行

【事務局】

京都府 土木建築部 公園緑地課 電話：075-414-5273(直)
 京都府 丹後土木事務所 管理室 電話：0772-22-3245(直)